鯉の図＝稲垣如蘭「三十六鱗図（登龍門図）」（部分）江戸時代（18～19世紀）彌記繪菴　亀の図＝如秀「亀図」（部分）江戸時代（18～19世紀）彌記繪菴

茶色の珍事

YAKIE
PYROGRAPHY

焦がして
描く
謎の絵画

焼絵（やきえ）

2026
3/7（土）⇒4/12（日）

開館時間　午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日　月曜日

観覧料　一般900円、大学生600円、高校生以下無料
※65歳以上・障がい者割引あり（要証明書）

主催　板橋区立美術館、毎日新聞社

板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM
〒175－0092 東京都板橋区赤塚5－34－27
tel 03－3979－3251　fax 03－3979－3252
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/

「いといと珍らか」なる焼絵

日本をはじめ、朝鮮、中国、現代の焼絵を約100点公開！

「焼絵」とは、熱した鉄筆や鏝などを紙や絹などに押し当て、絵や文字を表現した作品です。燃えやすい素材に火で絵が描けるとは信じがたいかもしれません。しかし、本展でご紹介する作品は、水墨画さながらに線描から点描、濃淡といった表現が巧みになされています。文献上では平安末～鎌倉時代頃に「焼絵」の記述が確認できますが、現存作例は江戸時代以降になります。焼絵が当時も稀な技法だったことは、江戸後期の歌文集に「いといと珍らかにこそ（非常に珍しいことである）」（村田春海『琴後集』「焼絵記」）の一文があることからも、うかがい知ることができます。

茶色を基調とした焼絵は、ぱっと見は華やかと言い難いものです。しかし、味わうほどに滋味深く、心焦がれるような魅力を秘めています。この春、板橋区立美術館で展開する茶色の珍事を、ぜひ目撃してください。

こがし、こだわり、こじらせた藩主

神農は炎帝と結びつく

キノコの図＝稲垣如蘭「松茸図」江戸時代（18～19世紀）個人蔵、**亀の図＝**如秀「亀図」江戸時代（18～19世紀）彌記繪菴、**神農の図＝**稲垣如蘭「炎帝（神農）容尊図」天保3年（1832）賛 彌記繪菴

香り高く炙った、キノコの王様

江戸時代の焼絵を語るのに欠かせない人物は、如蘭（じょらん）こと近江・山上藩の第五代藩主・稲垣定淳（いながきさだあつ）（1762～1832）です。諸芸に通じた如蘭は、手引きも何もないこの技法に挑み没頭しました。さらに、如秀（じょしゅう）や如峨（じょが）、如翠（じょすい）など、署名に「如」を含む人物による焼絵作品も見られることから、焼絵の伝授も行ったようです。

あなたが目撃者！まさか紙を焦がして描いているとは…

亀の甲羅の茶色い重厚感

ひそかな流行の火種とは

江戸時代に、静かなブームをもたらした焼絵。絵師たちはこの新たな表現に刺激と活路を見出したことでしょう。俳諧や狂歌といった文芸と結びつき、趣味人らの間でも受容されました。また、少ない材料で済むことから質素倹約を推奨する時世を意識したとも言われます。謎多き焼絵愛好の、火の元も探ります。

浮世絵師、晩年は焼絵に熱中

月夜に明かりを灯して

虎の図＝恋川白峨「竹虎図」江戸時代（19世紀）彌記繪菴、**灯籠の図＝**作者不詳「石灯籠図」江戸時代（18～19世紀）彌記繪菴

茶色いものはけっきょく美味しい

銅版画レベル!? 目を凝らして見てほしい繊細な茶色

茶が白い羽を引き立てる

山水の図＝朴秉洙「山水図」朝鮮（20世紀）彌記繪菴、**梅鶴の図＝**蘭旭「梅鶴図」安政3年（1856）彌記繪菴

展示室は茶色だらけ

江戸時代、茶色は「四十八茶百鼠（ちゃひゃくねずみ）」と言われるほどの種類があったとされます。艶やかな濃い茶、画面にとけ込む淡い茶…焼絵は茶色が織りなす豊かな表現が見どころです。ところで、煮物や揚げ物などを詰めた「茶色弁当」や「茶色飯」と呼ばれるものは、実のある美味しさの代名詞でもあるそう。焼絵は、もしかすると絵画界の茶色弁当のようなものでしょうか…?

となりの国の火画と烙画

本展では、中国と朝鮮の焼絵もご紹介します。中国では早くより始まり「火画（ひが）」など多くの呼び名がありました。朝鮮では「烙画（らくが）」と言われ、朝鮮王朝時代からの作例が伝わります。江戸時代には、大田南畝（おおたなんぽ）と中国人が焼絵について語り、また朝鮮通信使に日本の焼絵が披露されるなど、焼絵を通した国際的な交流も行われていました。

柳宗悦が現地で蒐集した竹工芸

焼いたとは思えぬブドウのみずみずしさ

線香で描く火画もあるらしい

焦がして描いた芭蕉の木

笛＝「短簫」朝鮮（1930年代）日本民藝館、**芭蕉の図＝**白南哲「芭蕉図」朝鮮（20世紀）彌記繪菴、**人物の図＝**沈達「西王母図」中国（1919年）村上コレクション、**ブドウの図＝**朴秉洙「葡萄図」朝鮮（20世紀）個人蔵

焼絵はこれまでもこれからも

ハイカラでもあり
ノスタルジックでもあり

焼絵はPyrography（パイログラフィ）、あるいはWood Burning（ウッドバーニング）と英訳されます。電熱ペンによる木製品などは、暮らしにとけ込んだものが多く、皆さんも目にしたことがあるでしょう。例えばかつての羽子板（はごいた）は、耐久性のために焼絵の輪郭線を用い、彩色を加えていました。

本展ではさらに、焼絵技法を制作の中心として活躍する現代作家の作品もご紹介します。

さわりたくなるような
ネコの毛の質感

紙を焦がして描いた、
うねり毛羽立つリアル

羽子板＝「焼絵羽子板」大正〜昭和時代（20世紀）頃 彌記繪菴、**猫の図＝**猫野ペすか「星―『心をケアする猫タロット占い』より―」令和7年（2025）作家蔵、**うねりの図＝**辻野榮一「伸びゆく生の形」令和元年（2019）作家蔵

関連イベント

講演会

参加無料、定員60名、要事前申込、1階講義室にて開催

「朝鮮通信使も見た日本の焼絵」
3月8日（日） 14:00〜15:30
講師＝片山真理子氏（東京藝術大学 美術学部附属古美術研究施設 助教）

「いといと珍らかなる焼絵の世界」
3月20日（金・祝） 14:00〜15:30
講師＝植松有希（当館学芸員）

ワークショップ

参加料2,000円、定員各回12名、小学校3年生以上、要事前申込、1階講義室にて開催

「電熱ペンで焼絵を描いてみよう」
はがきサイズの板に電熱ペンで焦がして焼絵を描き、額に入れて完成させます。
3月14日（土） 10:00〜12:00、14:00〜16:00（各回2時間）
講師＝高梨真澄氏、加藤朱莉氏（日本ウッドバーニング協会事務局）
申込方法＝2月21日（土）午前9時より電話で先着
電話＝03-3979-3251（板橋区立美術館、月曜休館）

学芸員によるスライドトーク

参加無料、定員60名、事前申込不要、1階講義室にて開催
3月28日（土）、4月4日（土） 14:00から30分程度

やきえ美術講座

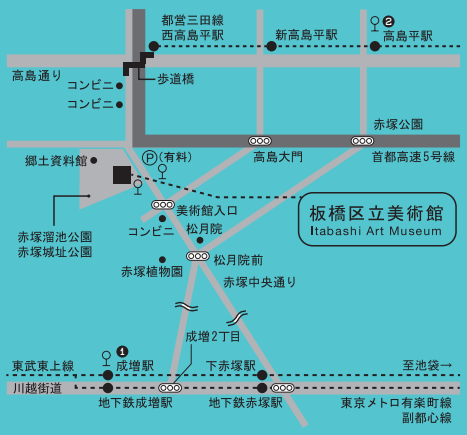
参加無料、定員20名、要事前申込、1階講義室にて開催

「焼絵を知ろう・近くで見よう」
3月21日（土） 14:00〜16:00
講師＝田部隆幸氏（焼絵（烙画）研究家）、植松有希（当館学芸員）

申込方法の詳細などは当館ホームページをご覧ください。

交通案内

徒歩＝都営三田線「西高島平駅」下車約14分
路線バス＝1時間に1〜2本程度、所要時間約10分
❶東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平操車場」行き
「区立美術館」下車
※東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可（5番出口）
❷都営三田線「高島平」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行き
「区立美術館」下車
タクシー＝東武東上線「成増駅」北口
または都営三田線「高島平駅」西口より約5分



板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM
〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27
tel 03-3979-3251 fax 03-3979-3252
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/